

◆医師の異動

○着任 (H29. 2. 1 付け)

リウマチ・膠原病内科

川中 紀邦

◆地域医療事業部・がん対策推進事業部が玄関前に移転しました

1月30日から業務を開始しています。



◆地域医療連携室からのお知らせ

皮下植え込み式ポート用穿刺針の変更のお知らせ

当院では感染対策の目的から、誤穿刺防止機能付き針を導入しています。

今回、皮下植え込み式ポート用穿刺針についても、抜針する際、針刺しの危険性が高いことから、誤穿刺防止機能付きポート用穿刺針に変更することになりました。

当院で皮下植え込み式ポートに穿刺し地域に戻られた場合、針を変更していますのでご了承ください。変更は平成29年2月を予定しています。

移行に関するお問い合わせは、下記の担当者までお願いします。



(変更した穿刺針の形状)

問い合わせ
市立長浜病院 医療安全管理室
TEL 0749-68-2300
感染管理認定看護師 藤木智美

◆編集後記

本格的な雪が滋賀県にも降り、各地域で渋滞情報が出ていました。積雪対策のない地域では除雪機能が整わなかったようですが、湖北地域はきれいに除雪を行ってもらえることに感謝し、湖北で生活することの良さを感じました。

Pink-bu



救急告示病院 日本医療機能評価機構認定病院
厚生労働省指定地域がん診療連携拠点病院
厚生労働省臨床研修指定病院 周産期協力病院

地域医療連携だより

平成29年2月1日号 No. 146

市立長浜病院



市立長浜病院ホームページ

<http://www.biwane.jp/~nch/>

市立長浜病院 検索



市立長浜病院地域医療事業部 地域医療連携室

〒526-8580 長浜市大茂亥町 313 番地

TEL:0749-65-2720 FAX:0749-65-2730

謹啓 厳寒の候、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は当院病院事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。2月の外来診察担当医師表をお届けいたしますので、ご査収ください。 敬白

◆滋賀県で一番のリウマチ膠原病診療拠点を目指して

診療局理事兼 リウマチ・膠原病内科責任部長 梅原 久範

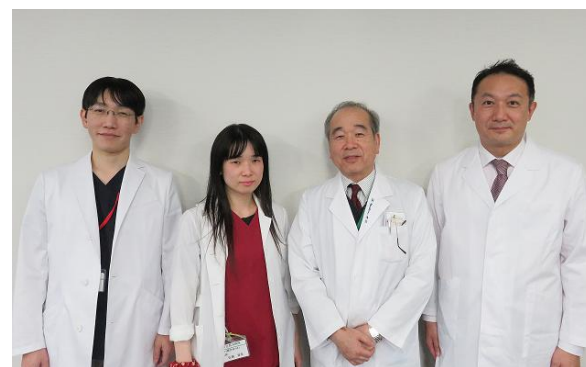
京都大学臨床免疫講座 三森経世教授、京都大学リウマチセンター田中真生准教授および当院の野田秀樹事業管理者、神田雄史院長のご高配を得て、本年1月1日付けで市立長浜病院リウマチ・膠原病内科およびリウマチセンターの運営を担当する事になりました。

私は、2004年に京都大学臨床免疫講座から金沢医科大学血液免疫内科講座に着任して以来、北陸地方は専門医の数が京阪神と比べて非常に少なく、リウマチ膠原病の診療が大変、手薄であることを痛感してきました。この問題を解消するため、北陸3県の患者会とリウマチ専門医の先生方、そして、県の福祉行政に呼びかけて、「北陸リウマチ膠原病支援ネットワーク」を立ち上げました。3県(富山・石川・福井)合同の総会を10年間開催し、専門医同士の交流を深め、患者さんへの情報提供と医療相談会を地道に行い、北陸のリウマチ膠原病診療の向上に務めてきました。

長浜市は琵琶湖北部に位置するため、地理的にも医療環境も北陸3県と似ています。また、近畿圏では珍しく滋賀県内にはリウマチ膠原病の診療拠点がありません。これまでは、京都大学から非常勤医師の派遣を得て、多くの外来患者さんの診療が行われてきました。

しかし、病状の急な悪化や思わぬ有害事象発生時の入院対応が十分ではありませんでした。この状況を打開することに加え、さらに、京大病院で実施されているリウマチ患者さんの大規模コホート調査を本年4月から本院でも開始することが長浜市と京都大学との間で調印されており、一挙に高度先進医療をも担当する事になりました。

幸いにも、金沢医科大からのメンバーである中村拓路先生、佐藤智美先生、良永幸恵秘書に加え、2月から新たに川中紀邦先生が加わり5人体制でスタートすることが出来ます。患者さんにとって、安全で質の高い医療を提供できるものと信じています。



これまで難病として恐れられていた膠原病も、不治と考えられていた関節リウマチも、生物学的製剤の出現など医療の進歩は著しく、緩解または治癒をも望める時代へと変わってきました。難病であればあるほど医師は患者に向かい合わねばなりません。私達は、「病気に厳しく、患者に優しい」医療を目指します。

◆「がん教育」について

診療局理事兼がん対策推進事業部 管理監 伏木 雅人

「がん」は2人に1人が経験するとともに身近な病気で、「死に至る」誤解があるかもしれませんが、実は7割以上治癒します。しかし、日本では「がん」に関する偏った情報ばかり広まり、正しい知識が普及していません。

この状況を変えるため、当院は湖北医療圏域および隣接圏域の小中学校に、「がん教育」の授業を開催しています。がんのとらえ方や、がんの予防に関する正しい知識、検診による早期発見の必要性、さらにはがん体験者にもお話しいただいて、「命の大切さ」「命の守り方」を学んでもらえることを目的としています。

生徒さんの受け止め方や反応に心配される担任の声もありましたが、実際は、終わりまで集中して聴講いただけ、質問や意見の挙手もしっかりあり、教員の方々も大変驚かれています。さらには実際のがん体験者の方にも協力をいただくことで、生の声から得られる「切実さ」、「がんが治って元気に社会活動出来る姿」が、生徒さん達の心の奥底に強く響いたことを実感しています。加えて「皆さんの身近な人たちの健康を守る医療者になってほしい」という呼びかけを直接受け止めてもらう、貴重で意義深い機会になることも、「がん教育」のやりがいです。

平成24年6月、第2次がん対策基本計画に「がん教育」が重視され、平成29年度からいよいよ小中高で必修化されます。多忙な教育現場において、「がん教育」の試みは始まったばかりですが、医療者やがん体験者が「がん教育」について積極的に協力する姿勢を持って、共に手を携え、さらに意義深いものに育てていきたいと、長浜市や滋賀県の教育委員会、行政および医師会とも相談を進めています。

◆口腔ケアでつなげる、つながる医科歯科連携、病診連携

歯科・歯科口腔外科 責任部長 家森 正志

がん等の周術期口腔機能管理が平成24年に保険診療に新設され、院内の外科系各診療科から口腔ケアの依頼が増加しています。顎骨壊死のリスクのある分子標的薬の治療前には、必ず口腔内チェックの依頼があります。内科系診療科から以前より糖尿病や誤嚥性肺炎、膿胸の治療の一環として歯科への依頼がありました。IgA腎症や関節リウマチと口腔細菌との関連が注目され、口腔ケアの重要性が高まっています。

表のように、一昨年9月から昨年8月までの1年間に院内から868例のご依頼をいただきました。

当院は、理念として地域完結型の医療を目指しており、当科では、院内紹介された患者のうち全身状態の安定している患者については積極的に逆紹介をしています。地域開業歯科の先生方にご協力いただけていることに日頃から感謝しています。

当科では、ワーファリンや新規抗凝固薬（NOAC）、免疫抑制剤、骨吸収抑制剤などの使用により侵襲的歯科治療のリスクがある症例について、対応させていただいています。また、障害者歯科医療や在宅歯科医療の後方支援病院としての役割を少しでも果たせるよう努力して参りますので、ご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

表 歯科口腔外科への院内紹介 868 症例の依頼元診療科の内訳（平成27年9月～平成28年8月）

外科	心外	整外	耳鼻科	呼外	脳外	産婦	泌尿	形成
205 (23.6%)	132 (15.2%)	70 (8.1%)	50 (5.7%)	49 (5.6%)	29 (3.3%)	19 (2.2%)	12 (1.4%)	2 (0.2%)
腎内	呼内	血内	循内	膠原内	小児科	神内	放射線	総合内
114 (13.1%)	62 (7.1%)	46 (5.3%)	27 (3.1%)	20 (2.3%)	11 (1.3%)	10 (1.2%)	8 (0.9%)	2 (0.2%)

◆米原市腎疾患予防対策支援事業について

米原市健康福祉部健康づくり課 保健師 伊賀並 愛

米原市では、住民の皆さんに元気で長生きしてもらうため、人工透析や虚血性心疾患、脳血管疾患などの予防可能な疾患にならないよう、「生活習慣病の発症予防・重症化予防」に力を入れており、市の健康診査結果から、リスクの高い方に、訪問による保健指導や栄養指導を行っています。

リスクの高い方のなかでも特に、末期腎不全や心血管疾患発症のハイリスク集団である慢性腎臓病（CKD）の発症予防・重症化予防対策については、湖北圏域で唯一腎専門医が在籍されている「市立長浜病院腎臓代謝内科」の支援を受けながら、重点的に取り組んでいます。

1. 腎専門医受診における連携

尿所見の異常や腎機能低下がみられている方は腎専門医受診が必要となりますが、未治療の方については、市の紹介で直接専門医を受診できるシステムを構築しています。それにより、原因疾患の発見や基礎疾患である生活習慣病の早期治療、教育入院等につながった方が多くおられます。

2. 専門医一かかりつけ医一行政間の連携（事例検討会の実施）

透析導入の原因疾患には糖尿病性腎症や腎硬化症などの生活習慣病起因のものが多く、それを防ぐには、腎機能を維持していくための基礎疾患管理が重要であり、医療と連携した継続的な支援が必要となります。

実際、米原市においてもCKDの方の多くは、かかりつけ医で基礎疾患（糖尿病や高血圧）の治療をされています。そうした方々の専門医受診のタイミングや、疾患管理で注意すべき点、最新の治療についてなど、地域で継続してCKDを管理していくために必要なことについて、三者間の役割を確認・共有することを目的に、腎専門医である森田先生を講師にお迎えし、年に2回、慢性腎臓病事例検討会を開催しています。事例検討会では、地域で実際に関わっている事例を取り上げ、森田先生からCKD診療の視点で助言をいただき、意見交換を行っています。平成26年から開始した事例検討会は、今年で3年目となりました。

森田先生や、市内の先生方と連携しながら今後もCKDの発症・重症化予防のための取組を進めていきます。



◆「滋賀県がんと向き合う週間」

滋賀県では毎年2月4日から10日までを「滋賀県がんと向き合う週間」と定めています。県民や事業者の方へがんに関する理解と関心を広めるとともに、がんの予防、早期発見等に関する自主的な取り組みへの意欲を高めるための活動が行われます。当院では、週間に合わせて次のような各種事業を行います。

○がんに関する展示・パンフレット等の設置・患者さんの手作り作品展 会場：当院玄関ホール
2月6日（月）～10日（金）

○がん専門相談員による相談対応
2月6日（月）～8日（水）いずれも9時～12時

○社会保険労務士によるがん患者の就労に関する個別相談会（※要予約・無料）
2月8日（水）13時～15時

びわ湖労務士事務所 遠藤なるみ 先生
担当 がん相談支援センター TEL68-2354

○第285回開放型病床生涯教育研修会 会場：当院2階講堂
2月2日（木）17:30～

テーマ「災害時歯科保健医療支援と受援」
～自治体・歯科医師会そして地域がん診療連携拠点病院の役割を考える～

講師 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 中久木康一 先生

○出前講座「がん教育」会場：長浜市立西中学校
2月9日（木）13:30～15:30

「がんちゃん冒険」自分とみんなの命を守るために～本当は怖くないがんの話～

「滋賀県がん対策の推進に関する条例」に定められているこの週間は、県のみならず関係機関・団体が一体となって啓発活動を展開するものです。市立長浜病院では、地域がん診療連携拠点病院として、皆さんに少しでもがんについて考えてもらえるよう、がんに関する知識や情報を提供するなど積極的な取組を行います。